

おおぐり
大栗遺跡

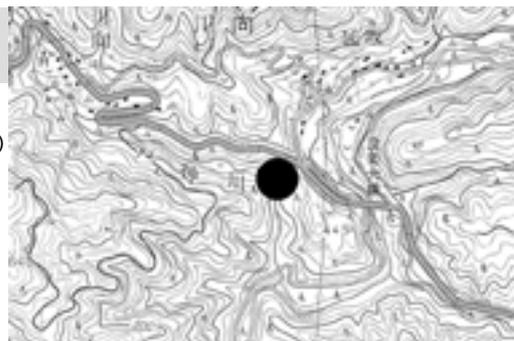
所在地 北設楽郡設楽町川向大栗
(北緯35度06分40秒 東経137度33分52秒)

調査理由 設楽ダム

調査期間 平成27年7月2日～平成27年9月30日

調査面積 2,360㎡

担当者 樋上昇・早野浩二



調査地点(1/2.5万「田口」)

調査の経過 発掘調査は設楽ダム建設事業に伴う事前調査として、国土交通省中部地方整備局設楽ダム工事事務所から愛知県教育委員会を通じた委託を受けて実施した。遺跡は縄文時代、平安時代、室町・戦国時代の遺物散布地として周知される遺跡で、平成27年度は平成26年度の範囲確認調査の結果を受けて、2,360㎡の発掘調査を実施した。

立地と環境 大栗遺跡は戸神川左岸沿いの南西向きの緩斜面に立地する。南東の丘陵上には縄文時代の遺物散布地として周知される大畑遺跡が分布する。

調査の概要 今年度の発掘調査においては、戸神川に面した緩斜面において少数の遺構と遺物の包含を確認した。また、調査区北西部分の丘陵斜面を造成した平坦面において戦国時代以降の遺構群を確認した。

戸神川に面した緩斜面は巨礫を含む礫層が広範囲に露出する。確認された遺構はごく少ないが、礫を多く含む土坑002SK・003SKは縄文時代の集石遺構の可能性がある。また、礫層を被覆する堆積層中には、熔結凝灰岩、チャート、黒曜石製の剥片を主体とする遺物の包含を確認した。周辺からは、縄文時代早期前半の押型文土器、縄文時代晩期以降の有茎石鏃、弥生時代前期の条痕文土器等も出土している。その他、灰釉陶器が出土した土坑019SKを確認した。

調査区北西部分の平坦面においては、戦国時代以降の遺構群を確認した。土坑043SKは大塚期前半の天目茶碗が出土したことから、戦国時代の遺構と考えられる。平坦面の整地層中からは、志野菊皿が出土し、整地後に掘削された土坑051SK・055SKには桶が埋設されていた。その他、調査の過程で、古墳時代前・中期の土師器壺、室町時代の古瀬戸四耳壺が出土した。

(早野浩二)



大栗遺跡15A区(南西部)全景



北西部の戦国・江戸時代遺構群



大栗遺跡15区遺構配置図(1:500)